

問題 以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

紙をリサイクルするのは森林を守るためである、と教えられてきた。日本の森林はもともと紙の原料としてあまり使われていないから、森林を守るという時の「森林」は、日本以外の森を指す。そして、多くの大学生は熱帯雨林や開発途上国の森林、つまり南の方の森林だと思っている。

これもテレビの影響が大きいだろう。テレビで盛んに熱帯雨林がなくなっていく様子を映し、紙のリサイクルをしなければならぬと宣伝されてきたからだと思われる。

もしかすると小学校の先生が「熱帯雨林を守るために紙をリサイクルしよう」と言っているのかもしれない。しかし、実際のところ紙のリサイクルと熱帯雨林や開発途上国の森林は関係がないのである。

世界の森林を大きく「先進国の森林」と「開発途上国の森林」に分けて考えてみよう。1990年までの15年間をみると、先進国の森林は1%増加し、開発途上国や熱帯の森林は7%減少している。

だから、森林を守らなければならないとしたら、開発途上国の森林や熱帯雨林を守らなければならない。……

今の日本の紙のリサイクルは「足を怪我しているのに、手に包帯を巻くようなもの」である。傷を直すのに包帯は必要かもしれないけれども、足を怪我しているのに手に包帯を巻いても仕方がない。

熱帯雨林を守りたいのに北方の先進国から来る紙の原料を節約しても、熱帯雨林の減少は止められないのは当たり前なのである。……

紙のリサイクルでなぜこんなバカらしいことが行なわれたのだろうか。

20年ほど前、日本は盛んに紙のリサイクルを推進していた。

街にはチリ紙交換屋さんの軽トラックが走り回り、古紙を集めてチリ紙に交換していた。読み終わった週刊誌や新聞をひもで括り、両手にいっぱい持って重たい結束を渡すと、チリ紙交換のおじさんがトイレットペーパーを一巻か二巻、くれたものである。……

しかし、そのうちに紙のリサイクル運動が起こった。もともと紙はリサイクル運動が起こる前からリサイクルされていたので、「チリ紙交換業」が立派に成立し、回収された紙は製紙会社に持っていかれていた。社会で紙のリサイクルに対する関心が高まり、それまで捨てられていた紙がより多くリサイクルされるようになるのだから、チリ紙交換の人はさらに繁盛するはずであった。

ところが、今まで民間がやっていた紙のリサイクルに自治体が関与するようになると、様相は一変する。使い終わった紙は、子供会、老人会、自治会などが集めてそれをまとめて自治体に持っていく。自治体では集めた紙の量に応じて子供会や老人会に

お小遣いを上げるというシステムになった。もちろんそのお小遣いは税金から出ている。

つまり、今まで全く税金など使わずに、立派にリサイクルしていた紙が、突然税金を使って処理されるようになったのである。自治体からお小遣いを貰った子供会や老人会は、それがこれまで世話になったチリ紙交換屋さんの仕事を奪っているということにも気づかず、それが税金であるということにも思いが到らず、ただお金を貰って環境に貢献したと満足していた。

まもなくこの仕事に目をつけた団体があつた。紙のリサイクルを民間から自治体がやるようになったので、自治体の首長に話をつけて一気に仕事を回してもらえば良いと考えた。そうすると利権の伴う仕事である。政治家や団体、そしてさまざまな人たちが動き、各自治体に話をつけ紙のリサイクルシステムは一変したのである。……

東京の各区ではそれぞれ多くのチリ紙交換屋さんが仕事をしていた。……彼らは政治を信じ、東京都を信じて、紙のリサイクルに汗を流していた。自分たちこそ昔からリサイクルをしており、これほど社会がリサイクルに関心を持ってきたのだから将来は明るいと思っていた。まさか水面下で特定の団体と東京都が話をし、自分たちの仕事を取ろうとしていることなど夢にも思っていなかつただろう。

やがて新しい紙のリサイクルのシステムができあがってみると、東京都と契約を結んだ特定の業者だけが古紙を取り扱えるようになっていた。政治力のないチリ紙交換屋さんはたちどころに敗れ、内輪の争いも起こつた。

それは悲惨なチリ紙交換業界の最後であつた。

風が吹けば桶屋が儲かるといった類と同じこの話は、まるで現代の怪談話である。

表面は美辞麗句に飾られた新しい紙のリサイクルシステムが発足し、額に汗して働いていた人たちが追放された。それからは、特定業者の鞏注、税金の浪費と続く。

間違つた行動は目的を達しない。熱帯雨林保護の機会は失われてしまったのである。

東京都のこの新しいシステムはたちどころに全国に広がり、それまで社会の一員としてリサイクルに協力していたチリ紙交換屋さんはすっかり世間から消えてしまった。

「無理が通れば道理引つ込む」という諺があるが、よく言つたものである。もともと、紙のリサイクルが森林を守るというお題目自体が間違いなのだ。その間違いを推し進めると、道理も何もかもまともなことはあらかた引つ込んでしまう。

—————武田邦彦『環境問題はなぜウソがまかり通るのか』(洋泉社)より

問 まず、「紙のリサイクルが森林を守るというお題目自体が間違い」なのはなぜかについて筆者の見解をまとめ、次に、そのことと「間違いを推し進めると、道理も何もかもまともなことはあらかた引つ込んでしまう」こととの論理的関係の有無について検討し、800字以上 1600字以内で論じなさい。句読点および段落を改めるために生じる余白も字数に数えるものとする。